

iSWEEP

アイスウィープ

老舗チューナーが具現した
我慢不要のブレーキパッド

ホイールはいつも綺麗にしたい。だけどBMWは特にブレーキダストでぐに真っ黒になりがちだ。iSWEEPが提供するブレーキパッド「IS1500」であれば、制動力やブレーキタッチを犠牲にすることなく低ダスト化を実現する。

リポート=中三川大地 フォト=郡 大二郎 report:D.Nakamigawa photo:D.Kori
問い合わせ=イシカワエンジニアリング ☎ 045-442-8777 <https://ishikawa-engineering.co.jp/>

ユーザーニーズに応える
ブレーキパッドの開発

いかにも日本人らしい、きめ細やかな配慮が行き届いたブレーキパッドのラインナップがある。ブランドの名はiSWEEP（アイスウィープ）。25年近くフォルクスワーゲン（以下VW）／アウディのチューナーとして活動してきたイシカワエンジニアリングが、ユーザーのニーズを具現化するために2007年に立ち上げた。

ユーザーのニーズとは、ブレーキに理想を求めるユーザーの声だ。特に低ダストブレーキパッドに対する要望は大きかった。開発当初、低ダストを謳う製品は他にもあったが、どれも制動力に不安があったという。そこでイシカワエンジニアリングは、ユーザーが求める性能や特性に対し、満足のいく制動力とリニアなフィーリングを保ちつつ、ダストの発生を抑えたパッドの開発に着手。生産を担うウィンマックスと二人三脚で切磋琢磨し、完成させたのがIS1500だ。この製品は、VW／アウディユーザーから絶大な支持を得た。

特にアメリカでの反響は大きかった。「ホイールはダストで汚れるもの」という先入観が根強い彼の地では、ユーザーにとって、まるで夢のような製品だった。さらに、「低ダストのブレーキパッドは効きが悪い」という常識を覆す性能が評価され、iSWEEPの適合車種はVW／アウディを超え、BMWやミニへと広がっていった。

米国での実績を経て、日本でもBMW用ブレーキパッドの正式販売を開始する。BMWはダストの発生量が多いものの、走



イシカワエンジニアリングはただ摩材や寸法を合わせこむだけでなく、車種ごとの特性を確認するため、積極的に長距離実走テストをする。

iSWEEP IS1500



純正パッドよりもダストが少く、ストリートでの制動力は純正同等レベル。コントロール性の良さやリニアなタッチも実現した。適正温度域は常温～450℃。

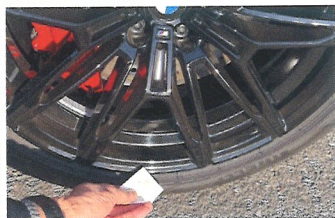


IS1500に加え、IS2000、IS3000など計7種のラインナップがある。数字が大きくなるほどワインディングやサーキットなどハードユースを見越した設計だ。

純正ブレーキパッド



iSWEEP IS1500



300km程度走っただけでも純正パッドはホイールが真っ黒に。IS1500であればほとんどダストの付着がない。純正、アフターを問わず複雑なスポーク形状かつ大径ホイールが増えたいま、IS1500の効果は大きい。

りに妥協はできず、ホイールセレクトにこだわるユーザーも多い。そうしたユーザーにとって、IS1500は最適なブレーキパッドといえる。

イシカワエンジニアリングのテスト車両であるG87型M2にIS1500を装着し、純正パッドと比較する形で300km程度の走行テストを実施。その結果、純正ではホイールに多量の黒いダストが付着するのに対し、IS1500ではほとんどダストが付着しなかった。さらに、ドライバビリティに不安を抱くこともなく、ごくナチュラルなブレーキタッチなもの印象的だ。まるで我慢

のいらぬブレーキパッドである。

本稿ではIS1500に焦点を当てたが、iSWEEPは異なる性能と特性を持つ7種類のブレーキパッドをラインナップしている。ストリート、ワインディング走行向けからサーキット走行、耐久レース向けの硬派なモデルまで多彩に揃う。2007年開発当初からの膨大なテストと使い手からのフィードバックを基に懇切丁寧に開発されたこれらの製品は、どれも高い信頼を得ている。純正よりもリーズナブルな価格帯であることも、iSWEEPがアメリカ市場での実績を得た理由のひとつだ。